

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25113 【プログラム名】河原で宝石と歴史を見つけよう！



開催日：平成25年8月31日(土)、9月1日(日)

実施機関：名古屋大学（名古屋大学博物館および、愛知県岡崎市の矢作川の河原）

実施代表者：門脇 誠二
(所属・職名) (名古屋大学博物館・助教)

受講生：小学生11名、中学生7名

関連 URL：

【実施内容】

研究成果の分かりやすい伝達・自主的活動を促す工夫：

書物でなく土器などのモノから人類史を復元する考古学研究について理解してもらうため、1)書物だけでなく身近な野外にも、知られざる歴史が埋もれていること、2)石器や土器などの古物は「時代遅れの道具」ではなく、歴史の直接的証拠となること、さらに、3)こうした歴史を野外で発見することは、研究者の特権ではなく、誰でも行うことができる楽しみである、ということ強調した。

それを参加者に主体的に感じてもらうために、実際にフィールドに出かけ(矢作川の河原)、参加者自らが発見した土器や陶器について、その時代背景を説明した。また、宝石として知られる鉱物の一部が、身近な川砂にも混じっているという地学の学習体験も合わせて行い、文理融合の総合サイエンス野外体験を行った。

実施代表者の専門ではない鉱物に関する解説を分かりやすく・詳しく・面白く行うために、名古屋大学、名古屋市科学館、愛知大学の地学研究者に実施分担者と協力者として参加してもらった。

当日のスケジュールと実施の様子：

1日目(8月31日)

- 9:30 受付(名古屋大学博物館 集合)
- 9:45 趣旨説明、科研費の説明
(バスで矢作川に移動)
- 11:00 河原で土器・陶器さがし
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 川砂の採集(パンニング)
- 14:00 バスで名古屋大学博物館に戻る
- 15:30 解散



2日目(9月1日)

- 13:30 名古屋大学博物館 集合
- 13:45 矢作川周辺の歴史と土器・陶器の講義
- 14:30 休憩
- 14:45 川砂の観察と鉱物の同定
- 16:30 後片付けの後、終了式(アンケート、未来博士号授与)
- 16:45 終了・解散



事務局との協力体制:

研究協力部研究支援課受託研究掛が振興会への連絡調整等を行った。また、研究支援課博物館掛にて、委託費の管理および広報活動、受講生募集、保険加入などの事業を実施代表者と協力して行った。

広報活動:

実施代表者が主導してポスターとチラシを作成した。また、当博物館の事務部(正職員2名、事務補佐員2名)が主体となり、博物館ホームページならびに中日新聞等の催し物案内に本事業を掲載し、広く周知した結果、80名近い応募があった。

安全配慮:

参加者2名に対し1名のスタッフを配置し、野外調査において安全を図ると共に、室内作業でのサポートと説明補助を行った。ケガが生じた場合に備えて、救急箱を用意し、参加者をレクリエーション保険に加入した。結果としてケガや事故は生じなかった。また、野外作業での熱中症予防として、参加者に飲み物を提供した。

今後の発展性と課題:

H24年度に行った活動(HT24102)と同様に、フィールドでの自然観察や文化体験と、屋内での資料観察・実験・座学の組み合わせは、参加者から高い評価と満足度を得た。今後もフィールドとラボの両方を含む科学コミュニケーション活動を行っていきたいと考えている。また、同じフィールドにおいて、実施代表者が専門とする考古学や歴史に加えて他の研究分野(今回は地学)の体験学習を企画・実施したことも、応募数の増加と参加者の高い評価につながったと思われる。今後は、実施機関(名古屋大学)に所属する他分野の研究者とも連携し、生物などの分野の体験も取り入れていきたいと考えている。

【実施分担者】

吉田 英一	博物館・教授(館長)
大路 樹生	博物館・教授
束田 和弘	博物館・准教授
藤原 慎一	博物館・助教

【実施協力者】 7名

【事務担当者】

前川 宏司	研究協力部研究支援課・外部資金掛長
-------	-------------------

